

第1回南部作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年6月29日 18時～19時30分

開催場所: 南部公民館 集会室

グループ	A	B	C	D
参加者数	6名	5名	5名	4名

- **地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:**

事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。

- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。

- **グループワークの趣旨説明と自己紹介:**

事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。

- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。

- **グループワーク①**

ファシリテーターの説明の後、参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにしたカードに書き出す作業を促した。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出した。

- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行った。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化した。

- **他グループとの共有:**

事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身

の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。

- 生活インフラの近接性やコミュニティの活発さ、地域行事、サロン活動、地域の環境などが出された。
- **グループワーク②:**
住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は、外国人住民との共生や、歩行者の安全確保を含むインフラ改善の必要性について意見を出し合った。また、生活の利便性を高めるスーパーや病院、そして地域住民が集まり語り合える場の重要性が議論された。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、高齢者、子育て世代、学生、外国人住民、障害のある方といった多様な属性を挙げた。
- 外国人住民とイベントを通じて交流を深める必要性や、高齢者の移動支援（タクシー利用の促進など）、そして地域経済を守るために地元の店を大切にするという視点が重要であるとされた。
- 外国人向けの専門カウンセラーの配置、元気な高齢者の就労場所の確保、祭りや交流イベントを通じた相互理解の促進を提案された。
- 老若男女が集まり賑わいがある地域、そして地域にお金が落ちて経済が循環する仕組みが重要である。また、住民が困った際に気軽に相談できる体制の構築や、子供の声や挨拶が聞こえる環境を作ること、安心・安全な地域づくりを目指すべきであるという意見が出された。
- 子供が遊べる場所の提供や、高齢者が子供に教えるような世代間交流の場の必要性が議論された。また、今後増加が見込まれる外国人住民への対応準備や、地域の安全を保つためのパトロールおよび市からの支援の活用についても意見が出た。
- 困った時には助け合い、手助けをもらったら返すという「相互依存」の精神が大切である。また、道路の整備など、歩行者や交通弱者が安全に移動できる環境の改善が必要であるという意見が出た。
- 閉じこもりがちな高齢者や障害のある人を社会へ引き出すために、地域内のサロンや集まれる場所の重要性を提案した。
- 高齢者が遠くまで買い物に行く際の危険性を減らすため、身近な場所にスーパーやコンビニエンスストアのような店舗が必要であると提案した。また、住民同士が地域の課題について話し合い、共に考えるコミュニティ作りの重要性を訴えた。

- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。